

教育理念・目標	日本国憲法が定める基本的人権を尊重し、平和で民主的な社会の形成に資する主権者を育てる。 法政大学の校風として育まれた「自由と進歩」を体現する主体的で創造的な人間を育てる。 豊かな知性と教養、健康な心と身体、思考力と判断力を有する人間を育てる。
----------------	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育目標を具体化するためにどのような取り組みを行うかを議論し、実施する。 ・ これまでの人事編成の振り返りとよりよい人事の作成方法を検討する。 ・ 学校予算に関わる研修の実施、個々人が全体状況を見据え、各担当部分をコントロールし、持続可能な学校運営をめざす。 ・ 安心・安全を確保するために施設・設備の改善点を検討する。
-------------	---

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 20XX年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	行事の目的を総点検し、教育目標に沿った各行事の位置づけを検討した。 教育目標を各教科、分掌で具現化するための討議をさらに進めることが課題である。				○「自由と進歩」は子どもたちが伸び伸びと自分の個性を伸ばしていけるイメージがある。
2	組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性・継続性を高めるため、現状に沿った組織機構の改訂を行った。 ・ 教員会議の議事運営が合理的かつ関連に進められるよう努めた。 ・ 互いを尊重し合い、育ち合う教員集団をつくるため研修を年間2回行った。 7月は財政状況認識の共有化、2016年度以降の行事案、いじめ問題の3本立てで実施した。いじめ問題については日頃から生徒の声に傾聴し、尊重し合う関係づくりの重要性を学んだ。研修を生かし、教育的な指導論の研究を行いたい。12月教研では中高カリキュラムの検討に向けて討議した。 ・ 持続可能な学校運営を目的に、学校予算に関わる研修を実施し、個々人が全体状況を見据え、各担当部分が部分をコントロールするよう意識して取り組んだ。 ・ 2016年度予算編成にあたっては、持続可能な学校運営、教育方針に合致した配分、予算が広く生徒全体に還元されることを目的として諸事業を見直すという方針に沿って検討した。老朽化した備品の買い換え等のため、調整を行った。 				
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	1. 教科 教務部では、2014年度総括と2015年度方針に基づき、教務・進路指導・図書・国際交流・学事の5部門が連携しつつ、各分野の業務に取り組み、生徒の学習と進路保障に努力した。学事部は昨年度より教務部に編成されたが、より有効な連携のあり方を更に追求したい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程に関しては、現行教育課程の抱える問題点等についての認識を共有した。また、現行教育課程ばかりでなく、教育課程審議会の動向も注視しつつ、教育課程改訂の準備作業を進めることを確認した。 ・ 新たに導入された入試・教務関係システムの運用に関する問題点を洗い出し、スムーズな運用に向け取り組んだ。「道德の教科化」への対応等、教育課程の見直しが必要な時期に来ており、2016年度の早い段階で、具体的な改訂に向けて合意を形成する必要がある。 ・ 2015年度授業参観を、中高とも学年PTA開催週の土曜日に実施した。2015年度より1日のみ実施(授業参観日)という形で行うこととしたが、形態については更に検討していきたい。 ・ 図書部では、PCリプレイスと図書館データのクラウドコンピュータ管理の導入・資料のOnline化を進めている。生徒の調べ学習の支援という観点から、パスファインダーの作成・資料提供体制を引き続き推進した。司書教諭の適正な配置が課題となる。 ・ 国際交流部では、留学・語学研修など国際交流活動を安全な実施に向けて取り組んだ。語学研修に関しては、オーカムに代えてカナダ語学研修が実施されたが、参加生徒の評判もよく、さらなる質的向上を期したい。 ・ 学事部では、時間割作成に加え、行事に関わっての時間割変更についても無事に対応できた。 2. 進路 <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路指導部では、中3・高3学年会と協力し、進路指導を安全に遂行するとともに、ウェルカムフェスタの開催など高大連携・3付属校の共同のもとに進路指導内容の拡充を図った。 				

	<p>3. 生活</p> <p>生活指導分野では、法政中高に集う一人ひとりの安全・安心な生活を実現することを最優先課題として取り組んだ。「学校は、主体的に参加し、仲間とともに学び合い、自他を高める場」と位置づけ、一人ひとりが自分に対して肯定感をもち、他人を思いやりながら生活できることを目指した。こうした観点から、「いじめ」につながる行為を未然に予防し、ルールやマナーの大切さを認識し、「人権」感覚をしっかりと持って自ら行動できるよう指導に努めた。様々な指導において、自分を他者に置き換え、他人の気持ちになって考える「想像力」をどの様に育むかという指導課題が示された。次年度は、この点について、HRや行事などを通して指導していく必要がある。</p> <p>また、「生徒・保護者の実態に即した指導」を中心課題とし、保護者との対話を通じた信頼関係の構築を最優先に取り組み、協力して指導にあたる関係をつくることを重視した。特に保護者に対しても指導内容の共有化に努め、学校と協力共同しながら生徒の指導に当たってもらう関係づくりに努めた。しかし、保護者との信頼関係を構築する上での課題もあった。保護者との「信頼と共同」を確実なものにしていくためには、問題が発生してからのみならず、日常からの「対話と討論」を重視することが重要である。</p> <p>一人ひとりの生徒に適した指導を展開するため、日常から個別生徒に関するカンファレンスを実施し、学内における情報の共有化をはかりことにより、チームワーク良く組織的な指導を展開した。今後も、多面的な情報を用いて生徒に適確な指導を展開できるように努める必要がある。</p> <p>いじめ防止対策推進法に基づく「学校いじめ防止基本方針」の策定に取り組んだ。次年度以降、更に本校の実態に則したものにしていく必要がある。</p> <p>【1】生徒会</p> <p>① 生徒会活動を通して「何を生徒に学ばせるのか」、そのためにはどのような生徒会指導を行っていく必要があるのか、という課題を掲げ、民主主義を学ぶ場として生徒会指導を展開した。各行事の具体的な場面において指導の在り方の検討がなされたが、生徒会指導の意義や目的を学習し検討するまでには至らなかった。他校との交流から得られた内容を本校の生徒会活動へ反映させることも試みていきたい。生徒会行事の目標を点検し、より教育力あるものとなるようにしていく必要がある。</p> <p>② 始業式・終業式の運営については、中学において「校歌を歌いましょう」キャンペーンが行われ、放送会と生徒会執行部が共同し、お昼の放送を利用したキャンペーンも行われた。この取り組みについては、効果が見られ、自ら参加しようとする姿勢が見受けられた。</p> <p>高校においても式典に臨む姿勢の改善が目指された。生徒会執行部と生徒会会員、教員集団で式典の意義や意味、運営の理念を再度確認し、協力してよりよい式典を目指す必要がある。</p> <p>③ 執行部をリーダー組織として確立し、生徒会活動をより教育的に推進するという方針については、生徒会執行部の指導性が十分に発揮されていない点が指摘されている。「三者協議会」と委員会活動の活性化、クラス討論づくりへ向けての取り組みなど、要求の掘り起こしと、その実現へ向けての取り組みを進めるため、生徒会指導を研究し、実践していく必要がある。</p> <p>【2】課外活動</p> <p>① クラブ顧問は安全指導を第一とする必要があり、部員が安心・安全にクラブ活動に参画できるよう注意深く指導する必要がある。</p> <p>② クラブ運営方法の健全化・正常化の課題も示された。各クラブにおいてクラブ指導方針案を作成し、生徒・保護者に運営方針や目標についても説明と理解に努め、生徒・保護者との共通認識をつくって活動する必要がある。</p> <p>③ 指導の入りにくい生徒に対する指導・対応はどのように工夫するべきなのか、という課題も示された。本人の自主性、自律性を引き出す指導が必要である。指導に困難を抱える場合には、顧問団で連携し、多面的な視点に立ってチームワークを発揮し、事態に対応するなどの工夫も必要である。本人の意欲を引き出し、生徒の変革を引き出す指導とは何か、改めて学ぶ必要がある。</p> <p>④ クラブ部長会議の活性化が目指された。クラブに関わる問題を各クラブの代表者が共有する場としての共通認識は深まってきた。クラブ活動全般についての共通認識づくりの向上や生徒の主体的な活動を行うことができるようにする、という内容面では課題がある。クラブ部長会議の内容や運営方法も更に検討していく必要がある。</p> <p>⑤ クラブコーチ懇談会は、今年度も年度当初に実施した。コーチも含め、指導者全体で共通認識をもってクラブ指導にあたることは、重要である。今後も内容を精査しながら、取り組んでいきたい。</p> <p>⑥ クラブ体制については、高校クラブへの参加を認める中学文化部についての提案を行った。現在のところ無事に推移している。その他のクラブ活動の体制や指導のあり方については、十分に討議を行うことができなかつた。引き続き、実態の把握に努め、集約された現状から本校におけるクラブ活動の在り方の論議をしていく必要がある。</p> <p>⑦ 体育棟およびグラウンド工事実施期間中の対応については、関係クラブの協力もあり、一定の活動を保障しつつ、実務を遂行することができた。</p> <p>【3】生活指導</p> <p>① 一人ひとりの生徒に即したより教育的な指導を行うため、担任・副担任・授業担当者・クラブ顧問など、複数の関係者によって多面的な視点から生徒を分析し、いくつかの事例で関係者によるカンファレンスが行われた。これまでの生活指導で経験してきた部分が活かされた側面もあった。しかしながら、長期休暇中のクラブ事故</p>	<p>○行事ごとに目的にあったサポートを教員がしていると感じる。</p> <p>○生徒会中心に創り上げる行事は、子ども達の将来にとって、とても有意義な体験である。</p> <p>○最終下校時刻が遅い。部活の活動時間が長すぎて勉強時間が確保出来ない。学校としてどういう方向性を重視しているのか？疑問を感じる。</p> <p>通学時間も含めて、現在法政中高に入学して来ている生徒達の体力も加味して、学業とのバランスを含め、行事や部活の在り方を考えてもらいたい。</p> <p>○部活動は、文化系の部活をもっと増やして欲しい。中高共通の部活にすれば、もっと部活の数も増やせるのではないかな。</p>
--	---	--

		<p>対応にあたっては、事実調査や指導案を持つ過程でその在り方が大きく問われる部分があった。関係諸組織が的確に動き、全体で合意を得て指導を展開することができる流れを整備し、その内容と段取りを共通認識にしていく必要がある。</p> <p>②みんなで協力共同しながら学校生活を営むことや、学習が中心となる学校生活を実現するため、「説明と理解」による粘り強い指導とは何かについて、さらに学習し、その教育的意義、方法論、組織論について検討していくことが課題となった。次年度も保護者との連携を重点課題の一つとして取り組みたい。</p> <p>③生活指導に関する「教員アンケート」を実施した。今年度実施したアンケートの分析を確実にし、次年度は生活指導の在り方を改めて教員集団で点検・議論する必要がある。教員各自の生徒への観察眼を高め、生活指導方法の力量を向上させることと、チームで協力し合いながら指導することが次年度以降の課題である。</p> <p>④ 自転車通学中に交通事故に遭うということが複数発生した。生徒に対しては、被害者にも加害者にもなり得るという自覚をもたせ、交通ルールを守り余裕を持って登校することを呼びかける必要がある。今年度の経験をもとに、保険の加入の呼びかけも含めた総合的な対策・指導を試みたい。</p>	
4	安全・保健管理 (保健、安全、防災、 施設等)	<p>1. 保健 アレルギーを持つ生徒への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に教員対象にエピペン講習会(エピペン実習)を行い、エピペン携帯者の情報共有を行った。 ・宿泊行事前(中1高1オリキャン、中2オリキャン、中3修学旅行)にアレルギーについてのアンケート調査を行った。アレルギーの有無だけでなく、除去食を希望するか、事前に献立の配布を希望するかも調査した。保護者の責任の下で回答してもらうよう、様式を工夫した。また、2015年度入学中学生については事前に郵送し新入生ガイダンス当日で提出していただいたため、余裕を持った対応ができた。 <p>2. 施設・設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全を確保するために施設・設備の改善点を検討した。 大学の新たなMV(ミッション・ビジョン)予算枠として、グラウンド人工芝張替工事付随経費・体育棟屋上多目的コート改修工事が予算化された。副校長が中心となり関係部署と連携し、施設部と交渉を行った。工期が2015年度夏であるため、授業・課外活動の場所の代替等、検討対応が急がれた。 <p>3. 環境・防災</p> <p>東日本大震災から4年が経過したが、地震に対する意識を高めるよう活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災につながる校舎内の環境整備：防災備品の充足、入れ替えを適宜行った。 ・行動計画の整備：防災カードを用いて緊急時の連絡方法などの確認を行った。 ・防災教育：避難訓練(1、3学期)、普通救命講習(中1、高1)実施 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの作成の検討 ・式典・文化祭・入試当日の「緊急時避難マニュアル」の確立 ・避難訓練をより実践的な方法およびあらゆる天候を想定した訓練の実施方法検討 ・緊急時避難場所として私学生徒の受け入れ方等の検討 ・学内のAEDの台数を更に増やすかの検討。 <p>4. スクールランチ</p> <p>中学1年生徒対象アンケート調査をもとに改善を図った(「栄養のバランス・カロリーの重視」から「生徒好みの味付け」に変更、弁当箱に盛りつけ温蔵庫に保管など)。スクールランチは弁当づくりの保護者負担の軽減を目的として実施された経緯がある。改めて目的について検討し、中高生の食堂の利用促進と併せて検討する必要がある。</p>	<p>○入学時に防災カードの説明を聴き、私学間で協力して子どもの安全を守ろうとしている事を知り安心した。</p>
5	連携 (保護者、卒業生、 地域等)	<p>1. PTA 役員、運営委員会の方々をはじめとしてPTAの方々のご尽力で基本的な活動を滞りなく遂行できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> *役員会ならびに運営委員会の活動の工夫・改善：PTA組織と教員組織とで連携し次年度役員候補者の選出ができた。規約の検討をさらに進め、役員選出の方法についても検討したい。 *各部会の活動の工夫・改善 ・文化厚生部：活動の内容がマニュアル化されていて、滞りなく活動できた。 ・広報編集部：マルチメディア室のPCの借用が可能になり前進したが、編集作業のあり方は検討を要する。 ・公費助成部：社会情勢も厳しい中、署名活動の意義など学習を行い、委員さんも高い意識で取り組んでくださったが、集まった署名数の減少に歯止めをかけることはできなかった。個人情報保護法下で署名にどのように取り組むか、大きな課題となっている。小中協議会問題に関しては、企画運営委員会や管理職とも相談し今後の方向性を見出したい。 *その他 ・文化祭生徒実行委員会と協議し、協力のあり方を探り、生徒には良い学びとなった。 ・PTAの規定・組織に関する資料を、12支部の加入学校から収集し、検討の材料を準備した。 *今後の課題は ・新年懇親会以外の費用を徴収するイベントへの教員の関わり方の検討 	<p>○PTA活動は学年が上がるにつれ同じ顔ぶれの活動になっているように感じる。互いを知り、活動もスムーズになる利点もあると思うが、一部の人々のPTA活動になっている感がある。PTA組織の在り方はどうあるべきか?考えてもらいたい。</p> <p>○PTA各部会の具体的な活動内容がまだよくわからない。新一年生向けにわかりやすく説明してもらいたい。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会のあり方（代理出席、時間設定の問題など） 生徒活動特別援助費についておよび緊急育英費の金額の検討と内規の整備 小中校協議会への関わり方 長期的には、役員会の組織的改変（各クラス代表との関係） <p>2. 地域</p> <p>*地域との関わりにおいては、生徒にとってより広い学習の場と位置づけ、よき市民の育成の場として位置づけ指導を展開してきた。三者協議会などにおいても、議題として取り上げ、学校と地域の現状を三者で共有し、対応策を検討することに努めた。しかしながら、地域と学校の関わりについての成果と課題を全学的に共有化するまでには至っていない。今後も、共通認識づくりを積極的に行っていく必要がある。</p> <p>*登下校において、生徒が被害的立場に立たされるトラブルが発生した。本校の生徒指導で至らない部分にも細やかに対応しつつも、被害を受けた部分については、毅然とした対応が必要である。スクールサポーターとも適切に連携し、迅速かつ確実な対応ができるようにしていきたい。</p> <p>3. 卒業生</p> <p>11/21（土）「第18回ホームカミング・デー」を開催した。</p> <p>若い世代の参加者も見られ、退職教員および卒業生の親交を深めた。</p> <p>参加者：58名（卒業生41名・同窓会役員7名・プラタナス会2名・退職教員3名・教職員5名）</p>	
6	大学との連携	<p>7/12(日)「ウェルカムフェスタ」を法政大学市ヶ谷キャンパスで開催した。法政大学三付属校の高校1年生対象に、法政大学の歴史や大学での学習・生活に関して紹介した。創立130年を超える法政大学の歴史、大学での学び、大学生の就職活動に関連する講演（保護者の方向け）、希望者対象には現役大学生による学生企画が行われ、進路指導において有意義なものになった。</p> <p>また、夏休み中(8月末)に「ワンデイサイエンスカレッジイン法政小金井キャンパス」が開催され、10数名が参加し、理系進学希望者にとっては有意義なものとなった。</p>	○高校ではより大学を意識した情報提供がなされている。大学はより充実していると受け止めている。付属校にもよりよい質の向上を期待する。

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 20XX年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	三者協議会	<p>今年度は、2回の三者協議会に取り組み、第三回目の協議会を実施することができた。三者で話し合うことによって一つ一つの課題点、問題点を多角的に検討することにつながり、よりよい解決方法を模索することにつながっている。</p> <p>教育的に生徒会活動を進めることの一環を担ってきているが、協議会の取り組みを学校全体に広げていく課題や事務局会議の運営など、更に改善を図っていく必要がある。今年度培ってきたものを糧にし、生徒・保護者と協力共同し、より教育的な活動の実現につなげていきたい。</p>				
2	教育理念	<p>前述の生徒アンケート結果を3年前と比較すると、法政中高の伝統や校風に対する肯定感を見て取ることができる。付属校らしい学習に対する期待感がうかがえ、学校行事への期待も高まっている。</p>				
3	入試広報	<ul style="list-style-type: none"> 高校一般入試の繰上合格を出す際に、繰上合格候補者の中に推薦入試を受験していた者がいた場合、その者を優先的に繰上合格とする制度を設定した。 本校の認知度の向上、受験生のさらなる獲得を目指し、内容を精選しながら広報活動を行った。各種メディアについては、各方面からのアドバイスを参考にしつつ、改訂作業を中心に行った。 入試関連のイベントとして、入試結果の報告会（塾対象）、オープンキャンパス、施設見学会、文化祭ミニ説明会、中学夏の説明会、中高秋の説明会、直前対策講習会を行った。基本的には従来の内容を継続するかたちであったが、オープンキャンパスでは、在校生やPTAの協力を得て、入学後の生徒や保護者の観点からも学校を紹介することができた。文化祭では、ミニ説明会の運営体制のスリム化と説明内容の整理を図りつつ、個別相談会の規模を大きくし、より様々な質問に対応できるように努めた。秋の学校説明会では、多くの教職員の協力を得つつ、滞りなく開催できた。直前対策講習会では、より見やすい模擬試験の制作に従事した。 新入生ガイダンスにおいて、受験生の実態を把握するためアンケートを実施し、志望動機や併願校、入学後に期待すること、宣伝効果、入試全般に関する意見などを調査することができた。結果を分析し、今後の広報や入試の活動に役立てたい。 				<p>○学校説明会で「子ども達が、すぐ仲良くなって楽しい学校生活が過ごせそう」という説明が、受験生の心に響いたようだった。</p> <p>○学校見学や、説明会の際に、生徒たちの様子が見られたり、直接話が聴ける機会があるとよい。</p> <p>他校の例では、生徒による学校見学会などがあり、好印象であった。</p>
4	地域	<p>有志の生徒が定期的にコミセンでの小学生との交流行事を行うことができた。今後は、継続的に行っていくことが可能な体制づくりが必要である。</p>				○より多くの生徒が地域と関わりを持つことで、地域の方々に理解されるような活動が必要ではないか。
5	子育て茶話会	<p>本会は2012年より緩やかにスタートし、2015年度は月1回土曜日に開催し、年間6回実施した。保護者、教員、スクールカウンセラー、地域の方々など多くの方々の</p>				○子ども親も各々が忙しい時代。話し合え

		<p>参加を得て、「人とつながる力」「子どもの自立は親の自立から」など様々な話題で懇談した。特に中1の保護者からは、初めての中学生生活で親子共々不安を抱えている中、先輩保護者や様々な角度からアドバイスをもらうことが出来て、心強いという評価を頂いている。</p>	<p>る場があるのはよいことだと思う。</p> <p>○初めての中学校生活は、子どもにとっても親にとっても期待も大きく、その分不安でもある。先生方や先輩の保護者の方と話ができる「子育て茶話会」は気持ちの支えになっている。</p> <p>○このような機会を設けている学校は少ないようで、他校の保護者からも羨ましがられた。とてもいい事だと思う。</p>
--	--	--	--